

# おつとめ



## アメリカ団少年会総会

去る、8月17日第48回少年会総会を開催しました。前日金曜日の夕方からお泊り会も開催し、各自があたっているおつとめの役割を練習しました。翌日は午前中におつとめまなび、式典が行われ、午後からはお楽しみ行事が行われました。

天理教アメリカ伝道庁

No.922

SEPTEMBER

2024



[tenrikyo.com](http://tenrikyo.com)



# つらつらせんがく 熟々浅学



## — 空き家 —

今年と来年の9月の1ヶ月間は例年の「にをいかけ強調の月」から「全教会布教推進月間」へと名称を変えられています。教祖140年祭年祭活動2年目の今年と最終年の来年の動きを活発に推し進めようという意味が込められています。管内の全教会はもとより、布教所、出張所を含め、管内の教友一同が、年祭活動の期間、活発ににをいかけ、おたすけに励んでいただければ嬉しく思います。

また、今月は秋季霊祭を執り行いますが、先人の足跡に続いて、私たちの足跡を後世に遺して行けるように意識してお通りいただければとも思います。

さて、日本の総務省統計局（Statistic Bureau of Japan）のホームページ（Website）に、「平成30年住宅・土地統計調査の結果、空き家数は848万9千戸と過去最多となり、全国の住宅の13.6%を占めていることが分かりました」とあります。そして、「空き家については、少子高齢化の進展や人口移動の変化などを背景に、増加の一途をたどっており、管理が行き届いていない空き家が、防災、衛生、景観等の面で人々の生活環境に影響を及ぼすという社会問題が起きています。また、少子高齢化が進展する中、空き家の有効的な利用のための対応が各地において必要とされています」とも書いてあります。

これは数年前のデータですので、今では前述データより多くの空き家があると思いますし、増加の一途を辿っていると思われます。

そのような日本の空き家ですが、世界からは日本の空き家に注目が集まっているそうです。特に、「古民家」と言われる農村部に建っている家に注目が集まっているとのこと。日本で住まいを求め日本国外在住の人（つまり、外国人）に向けた

情報サイトがあり、そこには「日本の地方の物件探しをサポートいたします」と書いてあります。日本では伝統を重んじることが多いと思いますが、家に関しては、新しい家に人気が集まる傾向にあります。つまり、日本人は「古民家」に関心が少なく、伝統的な建築家屋の良さが分かっていないということらしいのです。

しかし、欧米人は古い家に価値を置くことが多いようです。ヨーロッパの建物を見れば、それが何となく分かります。レンガ造りや石造りの建物なので建て替えるのが難しいこともあり、そのため建物を取り壊したり外観を変えたりすることはせず、内部修築や改造をして建物全体はそのままにしている文化があるように思います。そのためでしょうか、欧米人に日本の古民家の人気が高いらしいのです。

欧米人が古民家を好む理由には「古い」という点もありますが、それだけではなく、古民家で使われている梁や柱などの木材や古民家を建てた大工の技に敬意を抱いているからでもあるそうです。

昔に建てられた家の梁は太いように思います。そして、その梁は、ある程度の加工が施されていますが、真っすぐな梁ではなく、なるべく木の素材を活かしたと言いますか、曲がったままの大木を梁として使っていることがあります。特に古い家ではそのような梁が多く、屋根が吹き飛ばないように棟木も同様に曲がったままの大木を使っていることが多いように思います。

あるアメリカ人の建築家が日本にあった空き家の古民家が解体されて燃やされることを知り、「燃やすのであれば譲ってほしい」とその古民家を買取り、解体してオレゴン州に移築したのです。アメリカにも「軸組み」と呼ばれる木材を組み立てる伝統工法があるらしく、古民家を買取り

そのアメリカ人建築家は、購入した古民家を建てた大工の技術力の高さが直ぐに分かったそうです。

この古民家をアメリカの移築先で建てる時、日本からの大工の加勢を受けることができなかったそうですが、「日本の古民家を建てる」とアメリカ人建築家たちに声を掛けると、アメリカの大工たちが集まってきたそうです。日本の古民家に興味があったのだらうと思いますし、日本の大工の技がどのような物なのかを見たかったのではなかったかと想像します。

本年、「民家サミット 2024」という3日間のイベントが行われ、日本国内外の外国人に1枚5,000円のチケットが300枚売れたとのこと。このイベントでは「古民家を巡るツアー」が行われ、稲藁を使っての茅葺き体験、土壁を塗る左官の体験、鉋がけなどのコーナーがあり、それぞれ盛況であったそうです。

天理教の教えには、「真柱」、「大工」「棟梁（統領）」、「よふぼく」などと家に纏わる言葉が使われています。そして「おふでさき」に、「木(用木)」に纏わるお歌が多くあります。それらは「よふぼく」を意味するお歌が多いのですが、以下にいくつか挙げたいと思います。

高山にそだつる木もたにそこに  
そたつる木もみなをなじ事 3号 125  
にち／＼によふぼくにてわていりする  
どこがあしきとさらにをもうな 3号 131  
をなじきもたん／＼ていりするもあり  
そのまゝこかすきもあるなり 3号 132  
これまでもなんでもよふ木ほしいから  
たいていたづねいたるなれども 7号 15  
このたび八たにそこにてハ一寸したる  
木いがたあふりみ煮てあるなり 7号 16  
このきもたん／＼月日でいりして  
つくりあけたらくにのはしらや 7号 17  
それから八にち／＼月日みさだめて  
あとのよふ木もよふばかりを 7号 18  
それよりもひねた木からたん／＼と  
ていりひきつけあともよふを 7号 19  
にち／＼に月日をもわくふかくある  
をなじところに二ほん三ほん 7号 20  
この木いもめまつをまつわゆ八んでな

いかなる木いも月日をもわく 7号 21

このあといなにのはなしをするならば

よふ木もよふばかりゆうなり 7号 22

よふ木でも一寸の事で八ないからに

五十六十の人かすがほし 7号 23

特に7号の一連のお歌を拝読しますと、親神様の「よふぼく」に対する切なる思いを感じずにはおれません。「よふぼく」を育てる努力、丹精する努力、多くの「よふぼく」が必要であるとの仰せ。また、男女の隔てなく、どのような「よふぼく」もほしいとの仰せ。

私たちの立場からは「使ってもらえるよふぼく」に育つ努力が必要なのでしょう。

本部神殿の南礼拝場を建てられる時に二代真柱様が柱に使う木材に関して「構造上の問題があるのなら仕方ないが、なるべくありのままの木の太さを活かしてほしい」というようなことを言われたと、どこかで読んだ記憶があります。天理教事典の「昭和普請」の項目内に「南礼拝場は（中略）柱数は円柱径2尺5寸8本、径2尺3寸18本、方柱1尺8寸角16本、1尺7寸角18本」とありますので、そのお言葉を踏襲されたのではないかと思います。

この二代真柱様のお考えは、前述の「おふでさき」に込められている思召を具現化されようとの思いが感じられます。そして、それは親神様の思召と同じであり、どのような「よふぼく」であっても丹精し、作り上げて、陽気ぐらし建設の上での「よふぼく」として使ってやりたいという思召を南礼拝場に具現化されたのではないのでしょうか。

新しいことを求めることに異論はありませんが、古い物をただ単に「古い」と切り捨てるのではなく、どのように活かせるのかを考えることも大切であると思っています。

深谷 洋

## 立教187年8月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、教祖を神のやしろにこの世の表にお現れくださり、よろづ委細の元の真実を教えて、陽気ぐらしへと導く道をお付けくださいました。これの伝道庁に繋がる管内一同は、この真実の教えを知り、日々親神様の御守護を感じ、喜び勇んで暮らさせていただいておりますと共に、教祖のひながたの道を少しでも辿らせていただき、成人の努力を積み重ねております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の八月の月次祭を執り行う由縁の日に当たりますので、心尽くしの数々の物を供えて、只今より、ちばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせ、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびて参り集いましたよふぼく、信者一同と共に、本日は大勢の少年会員も参集し、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧ください、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、少年会アメリカ団おつとめまなび総会を滞りなくつとめ終えさせていただくことができ、誠に有難うございました。道の将来を担う少年会員たちが、たすけの御用に勤しむ立派なよふぼくへと成人できますよう、お育ての程をお願い申し上げます。

また、来月は全教会布教推進月間ですので、教祖百四十年祭の二年目の年祭活動として、一人でも多くのよふぼく、信者がにをいがけに励み、管内に御教えを広められますようお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭に向けて、管内の教友の心を一手一つにして、陽気ぐらし世界建設への持ち場、立場での役割を自覚しつつ、只今の時旬に相応しい心の成人を目指し、懸命につとめさせていただく所存でございます。何卒、親神様には、私共のこの真実の心をお受け取りくださいます、届かぬところ、至らぬところは幾重にもお仕込みくださいます、お連れ通りいただき、この教えが更に広まり、教えに基づいて暮らす人々が、なおも一人でも多く増えてまいりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

# 8 月月次祭神殿講話

ハイサクラメント教会長  
田所 レイ

只今はアメリカ伝道庁 8 月の月次祭を庁長先生を芯に勇み心でつとめさせていただきました。みなさんの真実のこもったお祈りにお礼申し上げます。そして昨日は少年会総会が執り行われ、私は出席する事が叶いませんでしたが、少年会員の心のこもった一条心のおつとめや、子供たちが子供らしく走り回り、遊ぶ姿を簡単に想像する事ができとても元気づけられ、勇ませていただきました。その勇み心のまま、本日は祭典講話のお役を頂きましたので、思うところを述べさせていただきますので、少々お時間を頂戴いたします。庁長先生よりこのお役のことをお話しいただいた時、正直なところみなさんの前でお話をする事はおこがましくもあり、光栄でもあり、少し不安に感じますが、どうか上手にお聞き取りいただきたくお願い申し上げます。

前回、もう 4 年前になりますが、お話しをさせていただいてから、個人的にも一般世間的にも何が起きたかを考えた時、少し考え込む必要がありました。その時の記憶をたどってみると、当時はコロナウイルスが流行し始め世界的な大混乱と、同時期に起きていた社会正義を求める声からなる対立に不安と恐怖感に怯えていた頃でした。当時を振り返ると、その頃に明らかになってきた事柄と不安定な情勢をいかに関連付け、また、どうやって意味をもたらされるかを考えた時、独特な不安感を感じたことを思い出しました。

もう大昔のように感じますが、この数年の間



に私が体験したことを振り返ると、数々の節に関して感謝の心を持つことが心の成人の基本であるということをお神様より再確認させていただきました。論達第四号にお教えいただく通り、私たちはお神様より心得違いを身上や事情にお見せいただくのです。

天理教事典に次のおさしづが掲載されています。

「ふしが無ければ、何かの事も聞き流し……一つのふしが無ければ聞き分けが出来ん。」

明治 22 年 10 月 9 日

まさに人間の心は浅はかで何かを失わない限りそのありがたさに気づくことがないのです。

ここでちょっとお神様の御守護を感じられる簡単なエクササイズをしたいので、私にお付き合いいただきたいと思います。私が三つカウントを数えたらゆっくりと深く息を吸い、そして同じようにゆっくりと息を吐いてください。息を吸う時にご自身の肺が膨らんでいくことを、そして息を吐く時にその空気が体から出ていくことを感じてください。

とてもシンプルなのですが、生きていくためには不可欠な行動です。私たちは親神様のけっこうなお働きにより、何気なく毎日約2万回呼吸をします。数年前、私は夜中に何かが自分の肺を握り潰すような感覚に陥り、深く呼吸をすることができなくなり、このお働きのありがたさを身にしみて感じました。

控えめに言ってもゾッとするような体験でしたが、すぐに元に戻ったので夢でも見ていたのか、と再び眠りにつきながら考えていました。数日後にそれが起きた時はもう元に戻ることはありませんでした。約2週間ほど拷問のような眠れない夜を過ごし、親神様、教祖に何とか乗り切る力をお与えいただけるよう毎日お祈りし、やっとの思いでお医者さんにかかることができました。

興味深いことにその間、毎日やらなければならないことはすべてできていたことです。痛みもなかったの、ちょっと時間がかかってしまっても問題なく動き回れたことに感謝するようにと親神様からお仕込みいただいたような感じでした。つまり、朝の掃除をし、おつとめ前にお供えをして、仕事にでかけるなど、ちょっとだけ眠気を感じていたかもしれませんが普段と変わりなくできていたのです。毎月サクラメントから伝道庁まで運転していたこともです。

最終的には私のこの呼吸困難は心臓疾患が原因だと判明しました。お医者さんより、私の心臓機能は約15%まで下がっており、心不全の候補ではないものの、いつ止まってもおかしくない状態だ、との話を受け、思ったより深刻な状況にあることを知り、その瞬間に自分は寿命に向き合っていることが明らかになったのだと思いました。もし心臓機能が10%前後まで下がると心臓移植について話し合わないといけなくなるそうです。もちろん不安でしたが、まだ生きているので親神様がお導き、お守りくだ

さっていることに疑いの余地はありませんでした。最初は簡単ではありませんでした、ありがたいと思えることはたくさんあることに気づきました。

おさしづに、

「人間というのは、身の内神のかしもの・かりもの、心一つ我が理」 明治22年6月1日とあります。親神様より頂く御守護を感じることができる限り、私たちは満足感を得ることができるのです。

私は何か望んでいないことが起きた時、笑いを取るために言う言葉があります。それは「世の中にはもっと悲惨なことが起きている」です。これを言うと笑いが返ってることがありますが、これは「かしのもの・かりもの」の教えに由来しているのです。私たちには心の自由があり、勇んだり、落ち込んだり、満足したり、不足を言ったり、それぞれの思うように心を使うことができます。感謝の心を持つことを意識するとありがたいと思えることを探すのが上手になります。言い換えれば感謝の心を持つ、感謝する、心からありがたく思うなどは何をやっても感謝の気持ちで通ることであると思うのです。

残念ながら私たちの身の回りには戦争や飢餓、自然災害や社会の大混乱など明らかに悲しみや心を傷める元となる事柄がたくさん起きており、時に今のこの時代を理解しづらくなってしまいます。しかし、これらの事柄は私たちが生きるこの時代では珍しいことではありませんが、過去と比べて今の時代の方がずっと楽な時代だと主張することもできるでしょう。爆弾が空から降ってきたり、官憲が私たちを監獄へ連行していく心配はなく、世界ではそういった事が実際に起きているところもあることを思うといかにありがたい事でしょうか。教祖を通してこの教えが伝えられた時、一般世界は激動の変換時で多くの人が世の中が落ちていく、もしくは終わ

りに近づいていると感じていた時代でした。

論達第四号では真柱様は疫病や頻発する自然災害はすべては私たちに心得違いの入れ替えを促される子供可愛い親心の現れであるとお諭しくさせていただきます。神様は私たちの身の回りに起きる事柄を通じてお互いに寄り添い、たすけ合い、感謝の気持ちを保つことによって喜びの気持ちを広めなさいとお伝えになっているのだと思います。これはどんな時もこの上ない喜びを持つことやイライラしない、ということではなく、親神様の御守護をもっと感じ、そして目の前に起きていることをもっと上手に受け止められるようになることなのです。

毎日の生活の中でゴタゴタに囚われてしまった時は日々お見守りくださり、お導きくださる親神様の御守護を忘れてしまいがちになってしまいます。おさしづに、

「これからというは、うっとしいなあとと言えばうっとしいなる。明らかなら明らかなる……………ごもくはすっきり浚い、明らかなら心に心配は要らん。心配するというのは心の曇りあるから。」

明治24年11月15日

とお教いただけます。私たちの心の持ち方が物事の解釈に影響し、親神様のお働きに感謝することの妨げになってしまうこともあるのです。

数ヶ月前、母と教祖御誕生祭に参拝するためおぢばがえりをする計画の最後の詰めをしているところでした。直近のパンデミックを含む諸般の事情から母はここ数年おぢばに帰る事ができていませんでした。母はおぢばに帰り、親里で御礼を申し上げることを楽しみにしていたのですが、多くの手助けを必要としていたため、多少不安に感じていましたので、私は母に自分が一緒にいる限りどんなことでもして、すべてがスムーズにいくようにするから安心して、と伝えました。母は80代半ばで今まで通り動き回ることはできなくなりましたが、いよいよ出



発間近となりました。

出発を約1ヶ月前に控えたある朝、私はオフィスでメールをチェックしていると母の部屋から大きな物音がしたので様子を見に行きました。ドアを開けると母は左肘を抱え、顔からは血が流れていました。びっくりしながらもすぐに患部を押さえ、応急診療所へ診察に連れて行きました。大した怪我ではなかったのはありがたかったのですが、心臓のために抗凝血剤を服用していたため、病院でレントゲンを撮ることを勧められたので、病院に行き検査してもらったところ、異常はなく無事に帰宅する事ができました。大怪我ではなく、治療も必要ではなかったのがありがたかったです。

それから約3週間後、コンピューターで渡航に必要な書類をアップデートしていた時、母が旅行カバンにいれておきたいから、とのことでパスポートを返してほしいと言ってきました。母が私に近づいてきた時、足を滑らせ転んでしまったのです。一瞬の出来事で、母は頭のとっぺんを机の角にぶつけてしまいました。私は飛び上がって母を受け止めようとしたのですが、時すでに遅しでした。母は頭頂部に大きな裂傷を

負い、流血してしまいました。すぐに患部をタオルで押さえ、病院へ搬送しました。母は明らかに痛がっていましたが、意識を失うことなく、はっきりしていたので少しホッとしました。

これは出発の5日前のことでした。救急でドクターはCTスキャンとMRIを撮り、その他の出血の可能性を探ったところ、脳内出血が発覚し、入院が必要とのことだったのですが、ドクターは興味深いことを口にししました。脳内出血のある箇所は今回の転倒によるものではなく、それ以外が原因であるだろう、とのことでした。脳梗塞になる疑いがあるため、医療スタッフが母に名前や年齢、住所などを繰り返し聞きました。しかし、母はすぐにそれらの質問に回答し、意識もはっきりしていました。また、母は意識を失うこともなく、体に障害が出ることもありませんでした。実際のところ、母が頭に裂傷を負い、顔が腫れなければこれらのことは分からなかったのです。

私はドクターに、前回の転倒の際に受けた検査の結果で何か見落としとしてしまっていたことはなかったか質問してみたところ、ドクターは前回の転倒の時の検査はクリアだった、とのことでした。つまり、前回の転倒から今回の転倒の間に母の脳内出血は始まっていたのだと思われます。母は教会の信者さんのためと、今回教祖御誕生祭参拝と婦人会総会に出席できるように1日6回おつとめをつとめていたことを私に教えてくれました。

母はおぢばがえりをする事ができなくなってしまったことをとても残念がっていましたが、もし親神様がこの渡航を止めなかったら、高度のフライト中、大した医療ケアもない状況でなにが起きていたか分からなかったよ、と私は母に伝えました。これは母が真実込めて毎日お祈りをしていたことに親神様、教祖が本当に不思議な御守護を下さったのだと思います。非常に

厳しい「節」であってもそこには素晴らしい御守護があるのです。母は日々の御守護のお陰で少しずつではありますが、動き回る事ができるようになっています。おかげさまで母は伝道庁90周年に喜びの心で帰参する事ができ、数年ぶりにある方々と涙ながらの再会を果たし、喜んでいました。親神様のお働きはまさに自由自在で、本当にありがたい御守護です。

最後に尾崎栄治先生の「しあわせを呼ぶ心」より引用させていただき、本日のお話を終わらせていただきます。

「よく聞く言葉に、『身上事情は道の花』とあるように、実は身上事情というふしは、われわれにとって、親の思いを胸深く味うことのできる時期であり、自分を静かにふり返ることのできる時期であると共に、親神の導きによって明るい明日へ大きい飛躍のできる時期である。ふしあって一層明るい道へと伸び行くことができることを思うとき、「身上事情は結構やで」と教えられ、「花」と聞かされることの意義を、よくかみしめ、味わい、常に生かして通りたいものである。 尾崎栄治「しあわせを呼ぶころ」

112～123ページ

教祖140年祭まであと一年半を切りました。「十年一節」とあるように、道の「花」は心一つで素晴らしい実を結ぶ事を心に留めておきましょう。

ご静聴ありがとうございました。







## 伝道庁連絡



### 8 月月次祭

祭主 庁長  
 扈者 中富淳次郎 雪本善  
 賛者 伊藤光春 野町ジョン  
 指図方 田中知義  
 神殿講話 田所レイ（英）

### 教会事情

加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願  
 おはこび：2024 年 4 月 18 日  
 創立 90 周年記念祭：2024 年 12 月 1 日  
 オレンジ教会：任命願、臨時祭典願  
 おはこび：2024 年 7 月 26 日  
 教会長：伊藤錦平  
 奉告祭：2024 年 9 月 21 日  
 本島バンクーバー布教所  
 2024 年 7 月 2 日解散届受理 ※講社として活動  
 愛遠アメリカ布教所：名称変更  
 新名称：愛静アメリカ布教所

### 天理教語学院（TLI）日本語科入学願書 及び志願者のための一れつ会扶育願書

2025～2026 年の「天理教語学院日本語科入学願書」と「日本語科志願者のための一れつ会扶育願書」の出願期間が下記の間になっていますので、入学を希望される方は 8 月末までに伝道庁までご連絡下さい。

尚、今年度より、願書は天理教語学院のホームページ（<https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/>）からダウンロードし、入手してください。同じページに入学案内、注意事項等もございますので、入学を検討されている方はご一読ください。

日本語科入学願書  
 出願期間：2024 年 8 月 15 日～9 月 20 日  
 日曜、祝祭日除く

願書費用：無料  
 一れつ会扶育願書  
 出願期間：2024 年 8 月 15 日～9 月 20 日  
 願書費用：無料（日本語科志願者のみ）

また同校のおやさとふせこみ科の出願要項は以下のようになっております。願書を取り寄せる必要がありますので、入学を希望される方がいる場合はお早めに伝道庁までご連絡ください。

出願期間：2024 年 10 月 1 日～10 月 31 日

（日曜、祝祭日、10 月 26 日午前は除く）

出願資格：以下の条件を全て満たす者

- 1) 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者
- 2) 海外の教会長、布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時によろぶくの者
- 3) 本校日本語科卒業（見込み）の者、または「日本語能力試験 N 3」以上の日本語能力を有する者
- 4) 卒業後、将来自国においてお道の用務に従事する予定の者



天理教語学院ホームページ

### 秋季霊祭

9 月 14 日（土）午後 7 時より秋季霊祭を執り行いました。

### 祭典役割

祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、10 月月次祭参拝有無に関しては、今月末（9 月 30 日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。

### 伝道庁人事

2022 年 5 月 27 日より女子青年として勤めている横山あきのさん（高知）は 10 月 13 日に勤務を終えて帰国予定です。

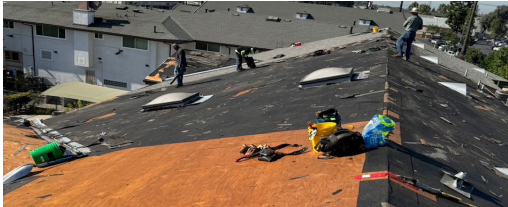


### 教化育成委員会

- ・おやさと練成会事前講習を開催する予定です。日程は決まり次第ご連絡させていただきます。
- ・TSA 冬季練成会を 12 月 26（木）～29 日（日）の期間で開催予定です。内容：講義、お楽しみ行事、餅つきひのきしん、委員選挙

## ふしん委員会

- ・9月4日よりMPホール屋根の葺き替え工事を行っています。(下写真)その後引き続き、2階男子トイレの天井、外壁の修理を行う予定です。
- ・天理会館、サラトガストリート沿いの排水工工事の見積もりをとっています。



## 広報委員会

- ・教祖140年祭に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 kamishuyo@hotmail.com

林 (takhayashi@gmail.com)】

- ・90周年記念祭時に展示していた「90年の歩み：写真展」は、11月の月次祭まで継続して展示されます。
- ・伝道庁ホームページ  
90周年記念祭のスナップショットを掲載しております。更に今後は、各イベントの写真・動画等を掲載していく予定です。
- ・Stories Inspired by Oyasama」動画、「SoulFire」の記録ビデオ、祭典講話、Podcast等が視聴出来るようになっています。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願いいたします。
- ・「Members」用のパスワードは、「joyouslife」です。

## Future Path 委員会

- ・2025年に天理教教典の勉強会を開催予定。

## 婦人会

- ・地区総会  
サンフランシスコ地区 9月28日(土)  
サンマテオ教会  
ロスアンゼルス地区 9月29日(日)  
伝道庁  
ニューヨーク地区 10月5日(土)  
ニューヨークセンター  
シカゴ地区(変更)10月27日(日)  
ミッドウエスト教会

## 少年会

- ・鼓笛隊員募集中：道の友と一緒に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。詳細は【moto1884@gmail.com】まで。
- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。
- ・新生児や転入された少年会委員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせください。  
アメリカ団少年会総会



## 青年会

- ・7/18～24 インターナショナルひのきしん隊  
北米地域からは10名が参加しました。  
(東海岸7名、西海岸3名)。

## NYセンター

- ・8/20 下村美瑛代(南紀)センター女子青年、文化協会日本語講師として着任
- ・9/4-16 NY日本人美術家協会展覧会
- ・9/22 秋季霊祭

## 少年会 地区総会

伝道庁にて開催されたアメリカ団少年会総会だけでなく、夏休みを利用し各地区でも総会、お泊りが開催されました。今回はワシントン DC 地区、NY 地区の様子をお知らせします。

最初にワシントン DC 地区。

無事、おとまり会、第 2 回少年会総会を開催することができました。5 年ぶりの、おとまり会でしたので、子供達は楽しみにしてくれました。

8 月 31 日の夕方集合。夕づとめ後に、おつとめ練習。夕食後には、外で運動会ゲーム綱引き、玉入れ、借り物競争、台風の目、パン食い競争などを行い、一番笑えたのがドレスアップレースでした。

9 月 1 日、第 2 回少年会総会は、1-2 下り目をつとめ。皆んな真剣に一生懸命つとめていて感動しました！！今年はパンダがいなくて寂しかったですー！！少年会員 12 人、ヤングスタッフ 8 名の参加でした。



### つづいて NY 地区

NY 地区少年会では、2024 年 8 月 24 ~ 25 日、おつとめまなび総会 / お泊りを盛大に開催し、31 名の参加がありました。

5 月からおつとめの練習を重ねてきたメンバーは、緊張しながらも、陽気に勇んでおつとめまなびをつとめました。今年の総会のテーマは、少年会の「3つの約束」の一つ「仲良くたすけあいます」でした。お泊り会では、おつとめ練習、チームビルディングゲーム、ひのきしん、そして近くの公園を訪れました。会員は来年の総会に向けて、新しい鳴り物を習うことを楽しみにしています。



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA  
2727 EAST FIRST STREET  
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

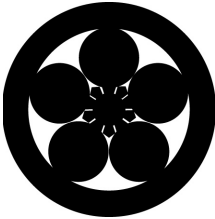
U.S.POSTAGE  
PAID

LOS ANGELES. CA  
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

---

## THE JOYOUS LIFE



**TENRIKYO** came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.  
The mind alone is yours.”  
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.